

ピンホールカメラ作製テキスト

< 缶カメラ：湾曲 >

ワークショップ用ピンホールカメラ（缶カメラ：湾曲）



シャッターを開いた状態



テスト撮影



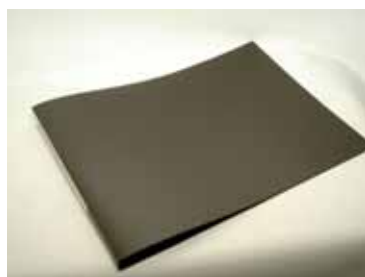
4×5inch フィルム 湾曲させて撮影

ピンホールカメラ作製の材料



フタ付きの缶

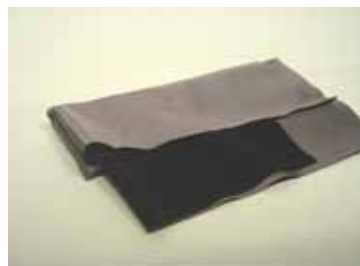
この缶は、フィルムを湾曲した状態で撮影するため少し小さ目のものにしました。缶を選ぶときは実際に4×5 inch フィルムを持っていき合わせてえらびます。また、缶の奥行きが画焦点距離になります。



ポリプロピレン製の B4 ファイル

ポリプロピレンは折り曲げ強度に優れています。

シャッター部、印画紙（フィルム）支持部を作ります。



遮光用の布

起毛した布を用いますが、いろいろな種類があります。扱いやすいのは、化学繊維で出来たもので、裁断してもゴミほとんど出でません。裏に両面テープを貼り使用します。

缶のフタと本体の間に貼り、光が入らないようにします。



アクリルラッカースプレー（黒：つや消し）

速乾性の塗料でカメラの内側を黒く塗ります。ピンホールから入った光が内面で反射するのを防ぎます。

油性のものは、乾きは速いのですが臭いが強いものが多く、換気に心がけてください。



塗装用 保護テープ

日曜大工店（DIY）の塗料売り場で売られています。100Yen ショップでも売られています。

無くても出来ませんが、あると便利です。



マグネットシート


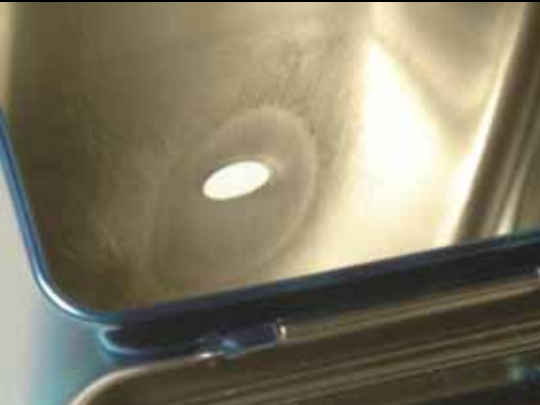



日曜大工店（DIY）や 100Yen ショップで売られています。

シャッターを作成します。そのまま使用しても構いませんが、絵を描いたり、シールを貼ったりアレンジできます。

4 × 5 inch カットフィルム（湾曲）使用のピンホールカメラの作製

4 × 5 inch カットフィルムを感光媒体とし、フィルムを湾曲させて撮影するピンホールカメラの作製の仕方を説明します。

1．ピンホールカメラ本体の作製

	
<p>フタ付きの缶を用意します。</p>	<p>缶の前面に直径 1cm の穴をドリルで開けます。その際、缶内部に当て木をするときれいに空けることができます。</p>
	
<p>缶の内側から、開けた穴のバリを紙やすりで削ります。</p>	<p>蝶番をとめている針金はずして上フタを外し、塗装用保護テープを貼って内部を塗装します。</p>
	
<p>内部をつや消し（黒）スプレーで塗装した後、塗装用保護テープをはがします。</p>	<p>フタが本体に付けられている蝶番のところに遮光用布を貼ります。</p>

<p>フタを閉めた状態で、遮光用の布（幅 5mm）を上フタの周りに隙間が出来ないように貼ります。</p>	<p>遮光用の布は3重に巻き、写真のように上フタの端からはみ出る状態にします。</p>

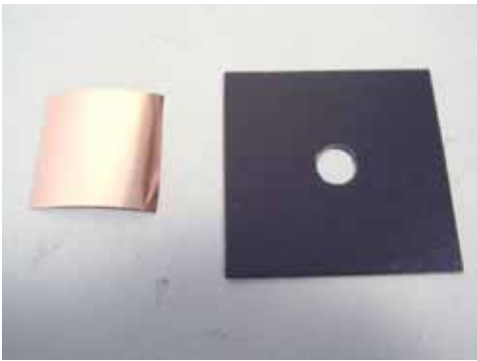
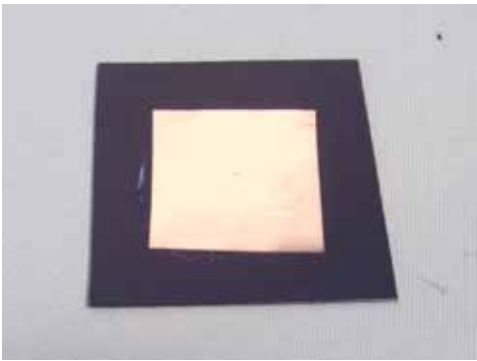
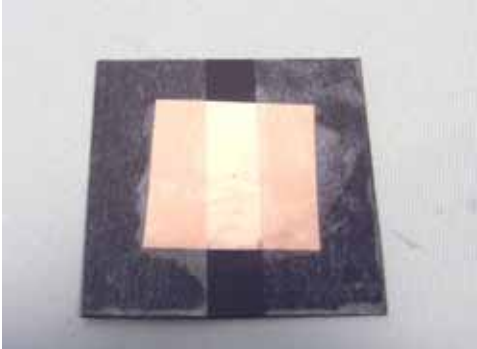


2 . シャッターの作製

<p>シート状マグネットでシャッターを作成し、端1箇所ドリルで穴を開け固定します。</p>	<p>シャッターの開いた位置と閉じた位置に突起をつけます。</p>

簡易シャッター



<p>シート状マグネットのみでも十分シャッターとしての機能を果たすことができます。</p>	

3 . ピンホールの取り付け

	
<p>ピンホールとピンホール支持板。</p>	<p>ピンホールをノリで支持板に仮止めします。</p>
	
<p>ピンホールに両面テープを貼ります。</p>	<p>左右上下とも両面テープを貼ります。</p>
	<p>ピンホールをカメラの内部から貼り付けます。</p>

4 . フィルム支持部の作製

フィルムをスライドして入れられるように、フィルムの寸法に合わせて作製します。

	
<p>ファイル寸法通りカットし、真ん中に挟む板には両面に両面テープを貼ります。</p>	<p>各部品を貼りあわせます。</p>

5 . フィルムの装填



フィルムをフォルダーに装着します。



フォルダーをカメラに装着します。



フォルダーを奥まで入れフタをします。

